



サステイナブルなひと、 生活クラブ

生協ってどんなことを
しているんだらう？



生活クラブ生活協同組合

2021.08.27.



生協の目的は？

組合員の生活が豊かになること





支える人と支えられる人が入れ替わりながら支え合える社会

連載 生活クラブの挑戦 手づくりの「地域福祉」を目指して

「これ来しりー、こゝろ一回」
一元気な声が10畳ほどのダイニングキッチンに響く。テーブルを囲んでの風船バレーに夢中になっているのは、履帯を超えたシニア女性たちだ。トーストした風船が床に落ちそうになるたびにどよめきが起こる。少し息が上ったところでティークイム。参加者は自編介代わりにも、お国(市)を自慢を披露しよう。フリートークが始まった。
ここは埼玉草加市の金明町にある「くろがねホーム・花グループ館」生活クラブ生活協賛本部。さいたま市に加入する草加市の組合員がなる草加支部が、住宅地にある2階建てのアパートの3LDKの部屋を借りて運営する。

既存の介護保険事業者に加え、市町村の住民や介護保険事業者指定を受けていなかった事業者にも、介護サービスの担い手になってもらい、多様なサービスを提供するのが目的だ。
総合事業には、介護保険事業者と民間事業者、民間非営利団体(NPO)法人やボランティア団体などが担う「介護予防 生活支援サービス事業」と「介護予防事業」がある。前者は介護認定「要支援1」「要2」の人を対象に訪問型や通所型のサービスを提供。後者は当該事業の利用者が自分の力で日常生活を送れる生活機能の低下を防ぎ、買い物や散歩といった続けられる身体機能の向上を目指したサービスを提供する。

今年4月に草加市がスタートした「介護予防、生活支援サービス事業」は、訪問型や通所型に類する。通所型サービスは民間事業者やNPO法人などが運動やレクリエーションを提供する。A型、主にボランティアが主体的な体操などを実施する。B型、保険・医療の専門家が生活機能改善するための運動、栄養、口腔、認知機能の介護予防プログラムを行う。C型に分類される。

草加支部では19年から組合員を集め重ね、まち

サービス利用者の年齢が80代から90代なら、この人たちを支援するボランティアスタッフの年齢も60代から70代。そんなユニークな介護予防サービスの場が埼玉県草加市金明町の住宅街の一角にある。

撮影/丸橋ユキ子 文/元本知子
暮らし・お茶 講演会(左) フリータイム(右) タイム。部外。自決。あつし。子どもなどをテーマに活動。



みんなてんてん(左) 交流して

組合員の活動スペースで地域の介護予防に貢献 生活クラブ生活協賛埼玉・草加支部「花カフェ」

同支部では、花グループ館を地域の組合員活動に必要な不可欠なスペースと位置付け、25人以上の組合員が参加する民間購入グループ「館」に配達される食品や日用品の荷受けや仕分けをはじめ、市民講座や各種イベントの会場として活用してきた。同館は利用規模に同意すれば、だれもが自由に使えるという地域に開かれた空間でもある。

今年4月、草加支部では花グループ館の新たな活用案を検討し、地域住民の介護予防に貢献するコミュニティの場「花カフェ」開設を決定した。約2カ月間の準備期間を経て、6月にオープン。タイムイベントを開催以降、毎週金曜日の午前10時から正午まで、「要介護1」「要2」の介護認定を受けた人を対象にした軽めの体操やレクリエーションなどを提供している。その一つが冒頭で触れた風船バレーで、他にも演歌に合わせて体操がしたり、口を大きく開けて文字を読み上げたりとお茶とおしゃべりを交えたプログラムが丁寧よく進められている。

そんなひとときを楽しむ人たちの姿に目をやりながら、「生活クラブの組合員活動に欠かせない施設の花グループ館を、地域の福祉に役立てられたのが何よりうれしい」と話すのは、花カフェ実

づくり構想を策定。15年からは草加市と連携し草加ふれあい支え合い会議」に参加してきた。総合事業開始に向けた草加市からの要請を受け、生活クラブの組合員(人材)や施設などを活用し、通所型サービスを提供する方向での検討がはじまった。

同支部には花グループ館に加え、組合員活動のための草加生活館がある。そこを他つてNPO法人「コミュニティケアクラブ埼玉」が通所サービス(A型)を担い、花グループ館では草加支部の組合員を中心とするボランティアグループがB型を担う案がまとまった。これを草加市に提出し、同市の通所型サービスA、Bの事業者指定をそれぞれ得た。

利用者、スタッフ双方の居場所



安野麻子さん

現在、花カフェ実行委員会は13人で、毎月シフトを組んで運営が当たる。介護現場でボランティアを募るのは難しいといわれるが、花カフェの登

行委員会代表の保井和子さん。草加市が進める介護予防・日常生活支援総合事業(京下、総合事業)の事業者指定に名乗りを上げてみてはどうかとの話が出たとき、「真っ先に賛成した組合員のひとり、わたしです」と笑顔で話。



▲花グループ館の1階にある花グループ館。2階は1階「花カフェ」が併設される

4利用後、スタッフでティータイム

総合事業サービスの担い手として

総合事業は介護保険法の一部改正により、2015年4月に導入された。この結果、「要支援1」や「要2」の介護認定を受けた人を対象とする「介護予防訪問介護(ホームヘルプ)」と「介護予防通所介護(デイサービス)」が、各市町村の事業に録スタッフはスムーズに集まった。スタッフの多くが近隣で暮らす生活クラブの組合員で、当初から花グループ館の運営に関わってきたからだ。「介護予防のための居場所づくりを提案したときも、これまで培ってきたおなじみの関係が地域に広がる絶好の機会と受け止められました」と保井さん。開所後、ボランティア活動に関心がある地域の人にも、自発的にスタッフに加わってく利用者の受け入れは地域包括支援センターからの紹介者を確保するが、スタッフが声をかけた近隣の市民がいきなり参加した。散居中のうち話がきかずに花カフェに足を運ぶようになった人もいた。利用者も年齢は80代から90代が中心で、スタッフも60代から70代後半の人が多く、そのせいか、好きな歌や食べ物など、利用者とスタッフが共通の話題が盛り上がり、とても体を休めたレクリエーションも楽しんでいる。花カフェでは毎回1人100円の運営費を集めるが、これも利用者、スタッフの区別なく全員が負担する。こうした工夫が、サービスの提供者と受託者という「隔たり」を取り除くこととなっている。

「利用者もスタッフも同じ目線。それぞれ自分のやりたいことができる。手作り感がある。それが花カフェの魅力ではないかしら」と言う保井さんの問いかけに、スタッフ全員がうなずいた。もっとおしゃべりに来てほしい。それが保井さんをはじめ、スタッフ全員が願っていた。



エコロ制度で組合員どうしの 「おたがいさまのたすけあい」

100円の会費で

2つの目的

会員同士のたすけあい

- (1) 暮らしのサポート
- (2) 組合員活動サポート
- (3) お祝い

たすけあいのまちづくり

- (1) Tハウス
- (2) 生涯学習講座
- (3) エッコロ基金
- (4) エッコロを支える活動

給付



補助



2025年に向けての政策目標

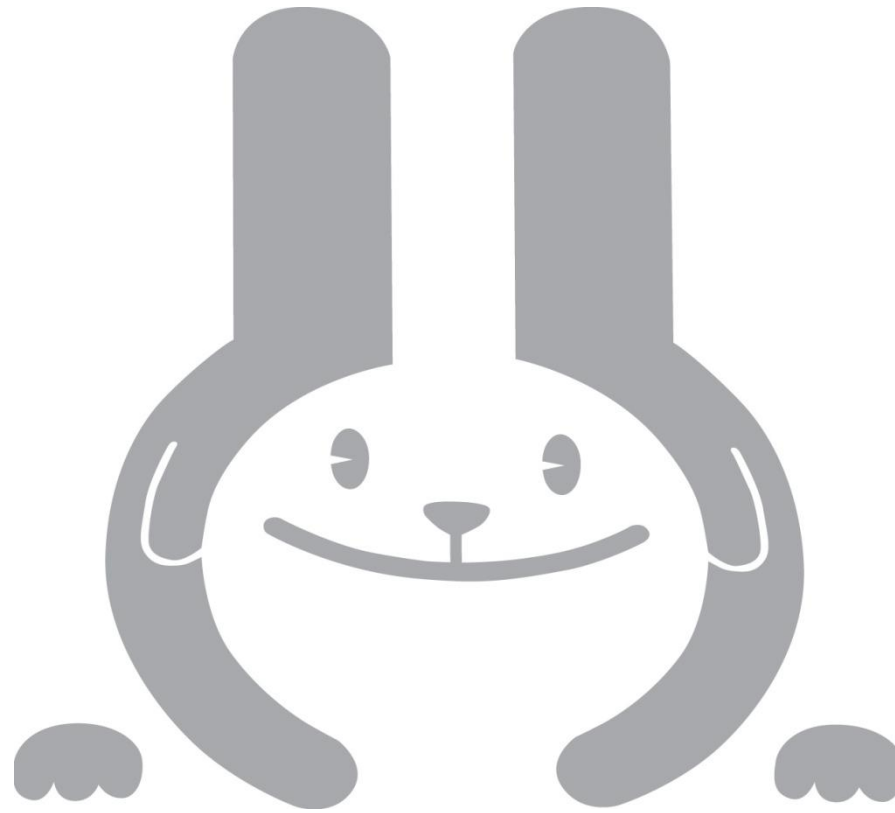
- ・誰もがその人らしく安心して生活を営める地域と社会を作る
- ・貧困と孤立を見逃さず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくる

大きな課題

組合員活動を通じた組合員同士のたすけあいだけでは、組合員の生活は豊かにならない。

組合員が暮らす地域が安全で平和であるためには





ご清聴 ありがとうございます

